

歩行意識とライフスタイルの関係に関する分析

協和設計(株) 正会員 ○日下部 貴洋
立命館大学理工学部 フェロー会員 塚口 博司

1.はじめに

歩行についての意識や態度は、人々の価値観、ライフスタイル、ライフステージといったものに影響されるとされる。一方で、歩行に関する意識や行動は、それ自体が、価値観、ライフスタイルを構成する1要因といえ、それらに影響を与えているとも考えられる。この相互関係を分析することにより、市民のニーズにより適した形で交通施設整備を提供する事が可能となるだろう。

このような視点から、本研究では歩行意識とライフスタイルに着目して、国内の5都市における調査に基づいて比較し、その関係を分析した。

2.アンケート調査の概要

本研究では歩行行動意識について地域比較分析を行うために全国から人口10万人以上の5都市を抽出し、2011年にアンケート調査を実施した。調査票は、各都市において電話帳無作為抽出した500世帯に2票ずつ配布した。対象都市における、アンケートの配布状況は表1に示す通りである。

表1 アンケート票の配布回収状況

配布都市	配布数	回収数	人口
東京都特別区部	1000	210	8,945,695
大阪市	1000	205	2,665,314
札幌市	1000	239	1,913,545
松山市	1000	249	517,231
浦添市	1000	208	110,351

※人口は2010年度国勢調査より

3.各交通手段の利用頻度と歩行意識の関係

各都市における交通手段の利用頻度を比較したものが図1、図2である。人口は東京都特別区、大阪市、札幌市、松山市、浦添市の順に多く、公共交通、自動車交通の利用頻度は都市の規模に関係することが分かる。公共交通の類用頻度は大都市圏で高く、地方都市で低い。自動車の交通利用頻度はこれとは逆に、地方都市で高く、大都市圏で低い。東京や大

阪は浦添、松山のような地方都市に比べて、公共交通網が発達しているからであり、小規模のサンプリング調査である本研究の調査でもこのことを確認することができる。

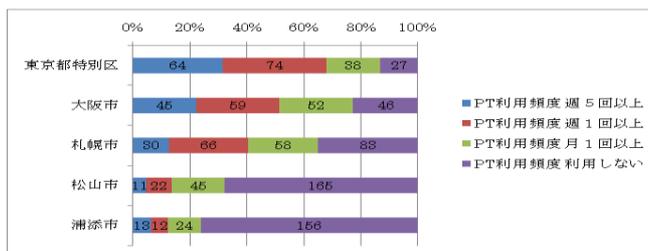


図1 各都市の公共交通の利用頻度

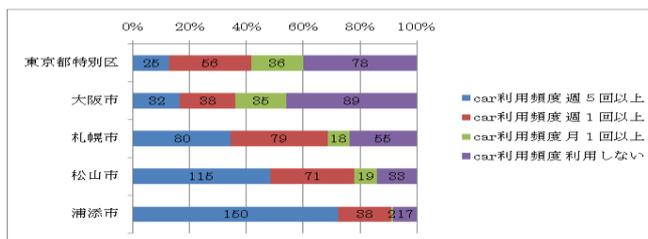


図2 各都市の自動車の利用頻度

そして、これらの利用頻度は歩行意識とも関係している。図3、図4は各交通手段利用頻度と歩行肯定度を比較したものである。歩行に肯定的であるほど公共交通の利用頻度は高く、一方、自動車はこれとは逆に歩行に否定的な方が、利用頻度が高い。

このように歩行意識と公共交通の利用状況の間には関係があり、このことは歩行環境整備において、公共交通の整備も併せて考慮すべきであることを示唆している。また、都市規模によりその利用形態に違いが生まれていることから、公共交通の整備状況が、市民のライフスタイルに影響を与えていることも確認できる。

キーワード：歩行意識、ライフスタイル

連絡先：立命館大学理工学部都市システム工学科
交通システム研究室(滋賀県草津市野路東 1-1-1
Tel:077-561-2735)

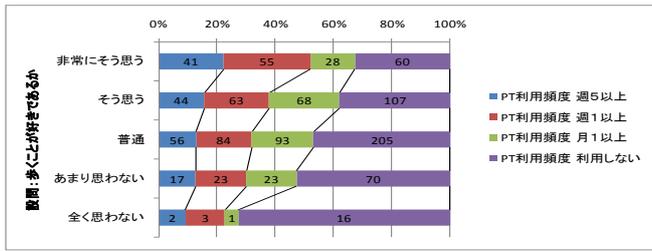


図3 公共交通の利用頻度と歩行肯定度

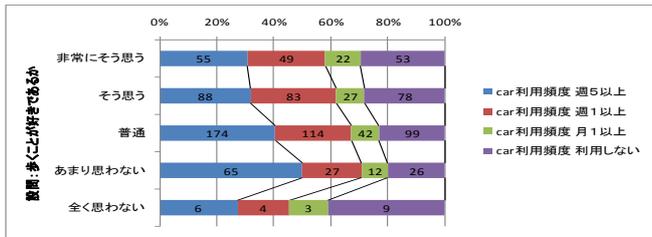


図4 自動車の利用頻度と歩行肯定度

4. 歩行意識とライフスタイルに関する比較分析

歩行意識とライフスタイルとにどのような関係があるかを分析するために、歩行意識 11 項目(表 2 参照)、ライフスタイル 10 項目(表 3 参照)の質問に対する回答結果を比較した。

歩行意識については「全く思わない」、「あまりそう思わない」、「普通」、「そう思う」、「非常にそう思う」の 5 段階で回答する形式を採用した。ライフスタイルについては表 3 に示す「8 アウトドア」について問う設問は「はい」、「いいえ」、「特に趣味はない」の三肢選択、それ以外の設問は「はい」、「いいえ」の二肢選択で回答する形式を採用した。

表 2 歩行意識に関する質問 11 項目

記号	質問内容
a	歩くことが好きであるか
b	歩くことは格好いいことであるか
c	日常生活において近い距離ならば、できるだけ歩くようにしたいか
d	散歩や散策が好きであるか
e	できるだけ景観の良い道路を歩きたいか
f	多少遠回りでも環境の良い道路を歩きたいか
g	多少遠回りでもにぎやかな道路を歩きたいか
h	歩行環境が悪くても近道を歩きたいか
i	他の人と比べて歩くのが速いか
j	信号が赤でも車が来ていなければ、横断することが多いか
k	よく知らない街中を歩く時、事前によく調べてから歩くか

表 3 ライフスタイルに関する質問 10 項目

記号	質問内容
1	環境に配慮した生活を送りたいですか
2	郊外よりも都心に住みたいですか
3	環境がやや悪くても、現在より利便性の良い場所に住みたいですか
4	流行や新製品に敏感ですか
5	習慣やしきたりにこだわらうほうですか
6	健康管理に気をつけるほうですか
7	地域活動あるいはボランティア活動などを行っていますか
8	趣味の活動は室内よりもアウトドアの方が多ですか
9	旅行は好きですか
10	繁華街によく出かけますか

歩行意識とライフスタイルについて、まず傾向を

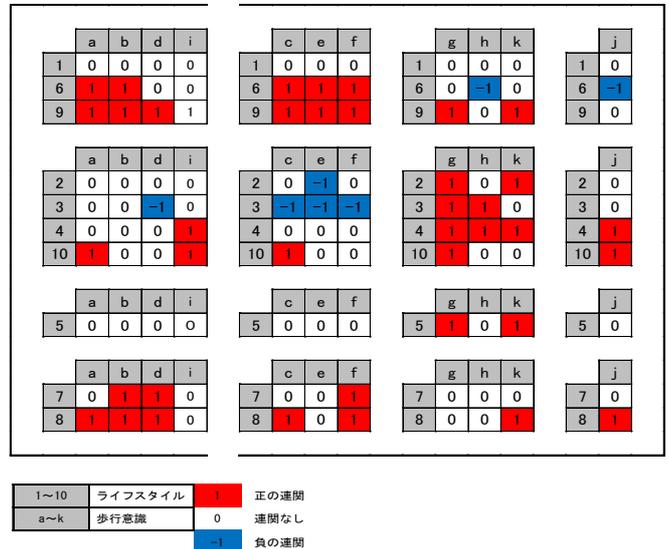
捉えるために、それぞれの項目群について Ward 法によるクラスタ分析を適用した。表 4 はその結果を示したもので、類推されるクラスタの性質も併せて記載する。表 5 は歩行意識とライフスタイルについて各設問の組み合わせについて χ^2 検定を行い 10%水準で有意な差がみられたものを各クラスタでまとめて示している。赤で示した部分は正、青で示した部分は負の連関が見られた組み合わせである。

歩行に肯定的な歩行意識は良い生活を好むライフスタイル、外交的なライフスタイルと親和的であった。歩行環境を重視する歩行意識も同様の傾向が見られたが、活発なライフスタイルとは相反するようである。活発で効率的な歩行を志向する者は、ライフスタイルも若者的な傾向が強いようだ。

表 4 クラスタに含まれる設問項目とその性質

	クラスタに含まれる項目	推測されるクラスタの性質
ライフスタイル	1 6 9	良い生活を好む
	2 3 4 10	若さ・活発さ
	5	習慣、しきたりを重視
	7 8	外交的
	a b d i	歩行に肯定的
歩行意識	o e f	歩行環境、歩行を重視
	g h k	活発、効率的な歩行
	j	煩雑を重視

表 5 ライフスタイルと歩行意識の比較



5. おわりに

本研究では、全国の 5 都市を対象とした歩行者の歩行意識とライフスタイルとの関係にある程度把握した。なお、筆者らはライフステージと歩行意識との関係等についても分析しているので、これらについては改めて紹介することにしたい。